

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 1階)

事業所番号	0670400969		
法人名	(株)ジェイバック		
事業所名	もも太郎さん 米沢		
所在地	米沢市通町5丁目3-46		
自己評価作成日	平成 24年 2月 23日	開設年月日	平成 16 年 2 月16 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 24年 3月 19日	評価結果決定日	平成 24年 4月 10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様も職員も一日を楽しく、笑顔が絶えない日々を過ごしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

フロアでは、利用者一人ひとりが好きなカラオケを歌ったり、また食事作りで得意分野の出来る事を職員と一緒にいき、楽しみや笑顔に繋げ活き活きと過ごしています。接遇スローガンでもある「あなたの笑顔は私の鏡」を職員は意識し、日々笑顔で接する事に心がけています。これまで利用者から多く教わった事を大切に、終末期に向けた関わりも念頭に置きながら利用者と共に過ごし、「第二の自宅」を目指して懸命に支援している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は常に理念に基づき日々実践するように心がけている。	利用者の心身的な状況を踏まえ、心のケアを重視している。利用者一人ひとりの思いを受け止め、安心して楽しく過ごせるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、農家の野菜を購入して地域の方との交流を図っている。又近所の理髪店も定期的に利用している。	地域の清掃活動や盆踊りには利用者と共に毎年参加している。高校生ボランティアの来訪もあり、また事業所の夕涼み会やいも煮会には、家族・地域住民や子供達の参加で利用者の笑顔が見られ、交流を大事にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通して積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様と散歩に行かれる時近所の方との挨拶等を行い、交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は町内会長、民生委員、市職員、ご家族、入居者様で現在の状況や報告等話し意見を出し合い向上に活かしている。	災害に関する事や、開かれた事業所を目指す為に地域住民の方へ「事業所へ気軽にお寄りください」と提案する等の身近な話題で話し合い、定期的に開催している。利用者・家族等からは感謝の声が聞かれ職員の糧となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいたり、介護相談員の訪問を受け入れており、関係作りに努めている。	毎月介護相談員の来訪により、外部からの気づきや見えてくる課題を共有し、ケアに役立てている。生活保護に関する事や、相談等アドバイスを受け、日頃から協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	夜間のみ施錠をしております。 現在は身体拘束が必要な方はおられませんが今後必要になれば、やむを得ない場合は職員で話し合い、必ずご家族の了承を頂き実施したいと思えます。	県主催の虐待研修等へ参加し、ミーティング時に復命書の閲覧で周知徹底し理解している。帰宅願望がある場合は、さり気ない声がけや買い物、ドライブと一緒に出掛ける等、見守りしながら自由な暮らしができるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所で問題委員会があり、法的問題や事故問題などを職員会議で話し合い学習の場を設けており、情報資料を職員で回覧し周知徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で研修があり、復命書と資料を職員に回覧し職員会議の場で伝達している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族様と入居者様に十分に説明をして理解が出来るまで説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、面会時や電話等で要望を伺う機会を作っており、職員会議に話合っている。	家族等には、電話や来訪時に気軽に話せる雰囲気づくりに配慮している。今後、事業所での暮らしの様子等を家族に毎月お便りで知らせる事を検討しており、信頼関係を深めていきたいと考えている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や事業者内の会議に参加し意見の結果を頂いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、人間関係、勤務状況の改善に努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加者より研修の内容を報告し、情報を共有し活用している。又年2回も勉強会を行っている。	法人内研修には出来るだけ全員参加している。外部研修へ参加後は全体会議で共有し、日々の関わりの中で職員同士その場で教え合い、スキルアップを目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	ボランティアを受け入れており、職員との交流も図られております。又職員が事業所内で研修して、質の向上に努めています。	グループホーム連絡協議会の集まりに管理者が参加している。今後は、法人内事業所同士の交流や他事業所との情報交換を図り、質向上を考えている。	同業者との交流の中で様々な情報を得るなど、利用者のケア向上に繋げる取り組みに期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安がなく安心して生活が出来るように初期段階において実態調査を行い職員でグループワークを行いアセスメント、ケアプランに反映させています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査でご本人様とご家族様の思いを受け止め信頼関係の構築に努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が望んでいることを聞き、適切な対応と判断に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と職員が共に支えあい安心して過ごしていただけるような関係に努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所の理念に「家族の絆」を掲げており、ご家族の面会時や電話等で報告し安心して過ごされるように支えています。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時には馴染みの場所に行き思いでをお聞きしています。又友人、知人が遠慮なく面会に来訪出来るようにお話しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事、お茶の時間は職員も一緒に参加して関わりが持てるように入居者様同士が楽しく過ごせる場面作りをしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様、ご家族様の相談に応じて支援させていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様に生活歴をお聞きし本人本位の生活が出来るように職員で話し合いながら希望、意向に努めています。	暮らし方について、利用者・家族等から聞き取った生活歴を基に意向の把握に努めている。「自宅に行きたい」時など、利用者の視点に立ち、その時の思いを出来るだけ叶えられるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	安心して暮らせるように今までの馴染んできた生活などを、入居者様、ご家族様にお聞きしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握して、その人らしい生活をして頂くように支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良い暮らしをして頂くために定期的にカンファレンス、モニタリングなどを開催し、それぞれの意見を反映した介護計画所作成をしています。	「利用者の思い・言葉」を入れる事を大切に計画作成している。毎月モニタリングし、入居者記録を基にして担当者を中心に全職員で話し合い、家族等の意向も入れながら3ヶ月毎に見直しを行い、気づきを反映させた個別の介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々気付いた事を記入し、職員同士が確認しあっており、それをもとに介護計画の見直しに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の農家から花を頂いたり、野菜を購入したり、定期的に町内の理髪店の方も来て頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診にきて頂き、急変時はかかりつけ医に相談し往診または適切な病院の紹介などをいただき、適切な医療を受けられるようにしています。	月2回の往診とその他必要な診療はかかりつけ医へ行き、事業所の送迎や家族等からの協力を得て、利用者の健康を支えている。急変時は医師の指示をもらってから対応する等、安心な受診になっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置になっていないため、介護職員が常に健康管理を行い、変化時にはかかりつけの医師に連絡し指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院中は職員が面会に行き、その都度看護師から状況の報告を頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	アセスメントの時点で、ご本人からお聞きし重度化した際は主治医、ご家族様と相談しながら事業所が出来る範囲内で支援を提供しています。	利用者・家族等の希望があれば、終末期のケアもしていきたいと検討している。職員の研修や勉強等、これから進めていきたいとの考えがあり、「第二の家族」として手厚い介護を提供していきたいと思っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で問題委員会があり、事故防止に向けての対策と検討をおこなっている。急変時や事故発生時についてのマニュアルを作成し統一したケアを行っています。救急命は全員受講しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の立会で避難訓練と夜間想定した避難訓練を行っており、緊急時のマニュアルを作成し、職員が共有しています。	7月に日中想定訓練をし、4月に夜間想定を予定している。利用者も参加し避難経路の確認等をしている。震災後は備蓄倉庫を準備して生活必需品を揃え、万一の有事の際に備えている。	避難訓練時に近隣住民への参加を呼びかけ、事業所の訓練の様子を見てもらうなど、具体的に手伝ってもらいたい事を伝え、参加しやすい工夫に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人間としての尊厳を守るように、利用者様一人一人を尊重して、プライバシーの確保に努め誇りを損ねないよう対応しています。	職員は法人内の様々な接遇に関する勉強会で再認識している。「利用者をよく知る」事とスローガンを心に留めながら、思いに沿った支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が毎日の生活の中で、思いや希望を話せる雰囲気作りや声掛けを行い自己決定が出来るように職員間で共有しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様に合った支援や援助に努め、日々の生活の希望にそって楽しく生活していただくように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己評価決定を尊重し、自己決定が困難な利用者様には職員と一緒に考えて行っております。定期的に床屋を利用してお洒落に気を付けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえから片付けまで、楽しみを持って活動できるように援助しています。	利用者の好みを取り入れ量やカロリー等に気配りし、1・2階同じメニューを毎食手作りしている。近所から米や新鮮な野菜を購入し、下準備や味付け等出来る事に参加して食卓を囲んでいる。毎回リクエストを聞き、外食や行事食も楽しみの一つとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の食事量と水分量を毎日チェックしており、個別援助を実施しています。利用者様の嗜好を取り入れながら栄養バランスも考えながら提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別性を大切にして声掛けや見守りを行い口腔ケアを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自力で排泄が出来きない方は排泄パターンを確認をして、トイレで排泄が出来るように、さりげなく声掛けを行い介助を行っています。	殆どどの利用者が自立排泄をしている。失敗時等は大きな声を出したりせずそっと手助けし、羞恥心に配慮している。必要に応じチェック表に記入し、一人ひとりの把握に努め職員で情報を共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事で繊維の多い食材や乳製品の提供、水分量の管理をしており、場合に応じては医師と相談しながら排便コントロールが必要な時もあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様と相談を行いほとんどの方は1日おきの入浴を希望され実施していますが毎日入浴される方もおります。気が進まない方いらっしゃる時は、希望に合わせた援助を行っております。	個浴や仲の良い利用者同士の入浴、時間や曜日等それぞれの希望を取り入れている。安全面にも配慮し、両手引き歩行での一部介助をしている。皮膚の薬など見やすい場所に設置し、くしの使用後は消毒して衛生面にも気をつけている。冬はみかん風呂などで寛いでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の生活の中で、心の安定をはかり、心身共に安らげるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が利用者様の薬を把握しており、服薬は記載されている名前、日付、本人確認を行い必ず飲み込みまで確認をおこない誤薬がないように徹底しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何をすると楽しみを持ち生活が出来るかを考えて援助にあたっています。レクリエーションに参加したい方、歌を歌いたい方、横になって休みたい方などその人の個性に重点を置くことを第一に考えて援助しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の身体状況と要望に合わせて、散歩や近隣郊外へドライブを行い、その際外食等も取り入れ楽しく過ごして頂けるように職員全員が努めています。	自宅近くのなじみのスーパーや近所の散歩、ドライブや外食など行きたい所へ出掛け地域との交流を積極的に行っている。外出時の緊急の場合はすぐ事業所へ連絡しチーム連携を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な利用者様もおられ、利用者様の希望を尊重して支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙を希望される方には職員が付き添い、住所間違いや電話番号間違いのないように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では利用者様同士が楽しく過ごされるように、又心地よい空間作りにために塗り絵、折り紙、絵などを四季折々に飾っております。	安心して寛げる雰囲気を大切に、季節を感じられる工夫を凝らしている。行事の写真飾ったり、ソファで思い思いに過ごしたり、その人に合った空間に心掛けています。外出後は手洗い、うがいをし温度・湿度にも気配りしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでソファや椅子に座られてテレビ観賞や新聞を読まれたり、利用者様同士で会話を楽しんだり思い思いに過ごされております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の配置は利用者様の希望を取り入れて馴染みのものを持ってきて頂きレイアウトしております。	日当たりがよく掃除も行き届き、大事な人形や位牌・家族写真など慣れ親しんだ物に囲まれた居室は、プライベートな時間が持てる様になっている。仲の良い利用者同士で相部屋を使用し、寂しさを上手に緩和している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の居室前にネームプレートを貼り、本人の居室がわかるようにしています。廊下、トイレには手すりを設置しています。		